STREAM
交通安全教育の潮流

全国に拡がるHondaの高校生交通安全教育活動　連載：第4回

Hondaのノウハウを取り入れ、学校独自の自転車教育をめざす

このコーナーでは、ホンダが全国で展開している高校生交通安全教育を取り上げている。今回は、9月より活動がスタートした群馬県での事例を紹介する。

平成24年の群馬県内の自転車事故件数は3143件。このうち3割に高校生がかかわっており、高校生が自転車事故に占める割合は全国平均を大きく上回っている。群馬県県土整備部交通政策課補佐の佐嶋芳明さんは「昨年10月に内閣府で開催された『都道府県・政令指定都市交通安全対策主管課（室）長会議』のなかで、ホンダが熊本県で実施した高校生交通安全教育の事例を知りました。自転車を利用する生徒が事故に遭わないための効果的な教育ができると考え、ホンダの高校生交通安全教育を県内の高校に案内しました」と導入の背景を話す。

群馬県立高崎商業高等学校（群馬県高崎市）では、10月下旬から11月上旬にかけて全校生徒を対象に自転車教育が実施された。同校では生徒のほとんどが通学に自転車を利用している。

同校生徒指導主事の中島隆行教諭は「昨年までは、入学直後の1年生に私たち教職員が自転車の実技指導を行っていましたが、生徒により実効性のある指導をしようと今年度はそれを見直しました。まず1学期には生徒に危険マップを配付し、学校周辺の危険箇所について詳しい説明。2学期に、高崎警察署によるスケアード・ストレイト教育技法を用いた交通安全教室を実施しました。そして、ホンダによる高校生交通安全教育を取り入れることにしました。私たちが持っていないノウハウをホンダから吸収し、将来的に当校オリジナルの交通安全教育をつくり上げていきたいと考えています」という。

人に迷惑をかけないという意識を持ってもらう

10月29日は2年生317名が参加。生徒は2グループに分かれ、座学と実技を交互に受講する。指導は本田技研工業（株）安全運転普及本部のインストラクターが担当した。

座学では、まずインストラクターが生徒に「なぜ交通安全を勉強するのでしょうか？それは皆さんの命を守るためです。これが、すべての人の幸せにつながります」と説明。「自分の身は自分で守ると同時に、他人に迷惑をかけたり、ケガを負わせないように気をつける必要があります。そのために必要なのは人に対する思いやりの心です」。

続いて、交通事故の加害者となってしまった場合、高校生でも賠償責任を問われることを、具体例を挙げて解説。さらに、自転車乗用中に出会う様々な危険場面を見せ、どのように対応すれば事故を防げるか生徒に考えてもらった。

譲り合いの大切さに気づいてもらう

実技は「8の字走行」と「反応回避」。「8の字走行」は直径10mの円をつなげた8の字コース内を自転車20台で走行する。まず1台ずつコースに入っていくが、20台が入る前に誰かがコースの途中で止まってしまう。これが何回か繰り返され、インストラクターは生徒を集め、全員がスムーズに走るためにはどのようにすべきか聞いていく。すると、「ゆっくり走る」「他の人の動きをよく観る」「譲り合う」と生徒たちが答える。「その通りです。さらに、声や合図で自分の意思を伝えることも大切です」とインストラクターがアドバイス。これらを一人ひとりが実践してみると、コース内を20台で走行することができた。

「8の字体験走行」では他の自転車の動きをよく観ることや、お互いに譲り合うことが安全運転には必要であることに気づいてもらう

片手運転の危険を体験してもらう

「反応回避」では、両手に旗を持つ先生に向かって自転車を走らせ、先生が上げた旗と逆方向に回避する。1回目は片手、2回目は両手で運転して、片手で運転していると、自分が思うように回避できないことを体験してもらう。「今回は旗が上がることを予測して走ってもらいましたが、道路を走っている時は目の前に突然、危険が現れる場合があります。傘や携帯を持ちながら片手で運転していると、急な事態に対応できなくなるため、たいへん危険です」と強調した。

最後に生徒の代表者が「私たちは毎日、自転車を利用しているので、今日学んだことを忘れないように安全運転に努めたいと思います」と、インストラクターに決意を述べ、自転車教育は終了した。

「反応回避」では先生が上げた旗を確認したら逆方向に回避する。片手に何かを持った状態（写真上）と、両手でハンドル握っている状態（写真下）をそれぞれ体験

群馬県内の高校で拡大が期待されるホンダの交通安全教育

この日、視察に訪れた群馬県交通政策課の佐嶋さんは「このような参加体験型の実践教育が最も効果の上がる手法だと思います。生徒の皆さんが楽しみながら取り組んでいる姿が印象的でした。来年度はさらに実施校数を増やしていきたいと考えています」と語った。

高崎商業高校の中島教諭は「ホンダの道徳的な観点からの指導は参考になりました。その一方で、新たな課題も見つかりました。正しいブレーキの使い方が身ついていない生徒がいたので、自転車の基本操作について再確認することも必要だと感じました。今後、ホンダの協力を得ながら指導内容を充実させていきたい」と力強く語った。

自分の命を守ることや、思いやりの心を持つことの大切さに気づいてもらうための座学

NEWS REVIEW

1 ●第44回全国白バイ安全運転競技大会
安全運転技術の最高峰を全国の白バイ隊員が競う

10月12日、13日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）にて第44回全国白バイ安全運転競技大会（主催：警察庁）が開催された。

この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、昭和44年より実施されている。今年は、47都道府県警察及び皇宮警察から、女性隊員35名を含む184名の選手が参加。

バランス走行操縦競技、トライアル走行操縦競技、不整地走行操縦競技、傾斜走行操縦（スラローム）競技の計4種目によって熱戦が繰り広げられ、2日間で約7940人が観戦した。

主な結果は以下の通り。

●団体競技の部
（第1部・9都府県警察）優勝／警視庁、第2位／福岡県、第3位／神奈川県
（第2部・38道府県警察等）優勝／高知県、第2位／佐賀県、第3位／島根県

●個人競技の部
（男性の部）
優勝／門之園純一（警視庁）
（女性の部）
優勝／宮田舞美（警視庁）

2 ●（公財）交通事故総合分析センター
高齢者の交通事故に関する調査・分析研究を発表

10月31日、JA共済ビルカンファレンスホール（東京都千代田区）にて（公財）交通事故総合分析センター主催の「第16回 交通事故・調査分析研究発表会」が開催された。

この研究発表会は、同センターが行った交通事故に関する各種調査・分析研究の成果を交通安全対策に活用してもらうことを目的に毎年行われている。今年は高齢者の交通事故をテーマに以下の5つの発表があった。

1）高齢者の交通事故―序―
2）高齢歩行者の事故
・事故例調査からの提案
・被害軽減ブレーキの効果
3）自転車乗用中の高齢者の事故分析と対策
4）二輪車事故と高齢者

5）高齢者の自動車事故
・高齢運転者の死亡要因の分析
・後席同乗中高齢死者の傷害状況の分析

※発表の詳細については以下のホームページを参照。
http://www.itarda.or.jp/ws/